

## 2周年のご挨拶

令和5年4月で2周年となりました。備忘録も兼ねて2年目を振り返ってみたいと思います。

令和4年の春は2月のコロナ6波(オミクロン株 BA1,BA2)の余波はあったものの、比較的落ち着いていました。しかし令和4年は6月から猛暑に見舞われ、さらに自分自身がコロナに感染してしまい、休診を余儀なくされました。幸い軽症で、一部、院内オンラインで診療を行い、処方箋を発行することはできましたが、改めて自分の健康維持が大切であると実感しました。7月には長年闘病していた父が亡くなり、8月には暑さのなか最大の第7波(オミクロンBA4,5)が襲来し保健所機能が完全にパンク、対応に追われるなど、しんどい夏になりました。秋になっても、ピークはすぎたもののコロナ患者さんは途切れることなく、その後徐々に増加に転じ年末年始にかけて第8波となりました。さらに年始からはこれまでなかったインフルエンザ陽性者も増加しました。コロナが増えると、それに伴うようにワクチン希望者も増え発熱外来とワクチン接種が一度に押し寄せ電話回線はパンク状態でした。さらに今回のオミクロン株は感染力が強く家庭内感染によってスタッフも次々濃厚接触者や感染者となり、その度にシフトの調整に苦慮しました。令和4年度1年間で2125人の検査を行い、1297人のコロナ感染症を診断(総陽性率61%)、治療を行いました。

波がピークになると、近隣の急性期病院は満床状態になり、コロナ以外の急病への対応はかなり不安なものがありました。普通の細菌性肺炎、盲腸などでも搬送できず命にかかわるような状況でした。また、解熱剤、咳止め、風邪薬といった薬や検査キットの供給不足の危機もありましたが、卸業者さんの協力もあってなんとか乗り切れました。行政からの个人防护具の配布や、感染診療にかかる補助金などには助けられました。一方、感染の様相がどんどん変わる状況に、迅速に方針変更するという点に関しては政府の対応が十分ではなかった点もありました。また、無症状者に対する無料PCRや、過剰な水際対策に代表される、非科学的で情緒的な対策は、政府にそれを強いる国民やマスコミの意識改革も必要なのではないかと感じました。令和4年度もたびたび追加や変更されるコロナワクチンの日程調整や予約、コロナ対策にかかわる補助金制度への対応、さらにHER-SYS、G-MIS、オンライン資格確認導入などDx(デジタル化)に関わる点、近畿厚生局の新規個別指導、労務の問題など次々と新しい事柄があり、これらの点では苦労がありました。

開業以来コロナに翻弄されていますが、スタッフにも支えられなんとかやってこれました。コロナに関連した気管支炎、喘息患者さんが増加し、『呼吸器内科』で検索し当院を訪れていただく患者さんも増えました。今後もコロナの波はくるかもしれませんが、本来の内科、呼吸器内科で質の高い医療を提供できるように引き続き精進する所存です。引き続き3年目もよろしく願い申し上げます。

令和5年4月 院長 北田 清悟